

令和7年 新春のごあいさつ 謹賀新年

明 けましておめでとうございます。旧年中は市政各般にわたりご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、能登半島地震が発生し、姉妹都市である石川県能登町も甚大な被害に見舞われました。能登町へは、いち早く物的・人的支援を実施し、市民の皆さまや団体からも多くの支援が寄せられました。被災地の復旧や復興には多くの時間を要しますので、野尻町時代から続く絆をさらに深め、支援を継続してまいります。

防災につきましては、宮崎県でも日向灘で地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、大規模地震がいつ発生するかわからない状況にあることを改めて実感しました。台風や大雨による災害も毎年発生しています。本市では、各地域で防災訓練などに積極的に取り組んでいただいておりますので、ぜひ自助、共助を含めて防災について考え、日頃の備えをお願いします。市としても、皆さまの安心安全を確保するために、危機管理体制の充実に努めてまいります。

地域経済につきましては、物価高騰が大きな影響を及ぼしていま

す。基幹産業である農畜産業においても農家の経営に打撃となっており、国や県の動向を注視し、地域の各分野の団体と緊密に連携をとり、対策に取り組んでまいります。市民の皆さまも、地域で採れたおいしい食材を積極的に消費し、魅力向上と地産地消の推進にご協力をお願いします。

市民参加型の「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトにおいて、「こばやしスペシャルPR大使」の蛙亭・イワクラさんや吉野北人さんに本市の魅力を発信いただきました。動画再生回数やファンによる「聖地巡礼（ロケ地巡り）」など本市への関心の高まりが効果として表れています。今後も、市外・市内両面から盛り上げるプロモーションにより関係人口を増加させ、多くの方に愛され応援されるまちづくりを目指してまいります。

「健幸のまちづくり」を総合的に推進するための健幸のまちづくり拠点施設は、令和8年3月の完成を目指して着工しました。健幸ポイント事業も参加者数が増加しており、取り組みの浸透を実感しています。今後も積極的に推進してまいりますので、皆で楽しく健康づくりをしましょう。

令和9年に宮崎県での開催が決まった「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」まで3年を切りました。市では国スポ・障スポ推進室を設置し、また幅広い分野の団体で構成する実行委員会を設立するなど準備を加速しています。施設についても、健幸のまちづくり拠点施設に加え、カヌー競技とローイング競技を実施する小野湖の整備に着手しています。国スポ・障スポの開催は、本市の魅力を全国にPRし、地域の活性化を図る絶好の機会です。市民総参加型による「オール小林」での大会を目指し、取り組んでまいります。

本年の干支である「巳」は、「復活と再生」の象徴といわれています。これまでの取り組みが芽吹き、小林市の新たな魅力となるよう、そして、市民の皆さまが元気に笑顔で暮らせるよう、今後も対話を重ね決断する市政運営に努めてまいります。

結びに、本年も市政各般にわたりご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、皆さまにおかれましても、素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ、新年のあいさついたします。

市民が元気で笑顔になれる

小林市を目指します。
小林市長 高原 義久